

下関市医師会新型コロナウイルス対策チームからのお願い

3つの「目からウロコ」

2020. 4. 12

下関市医師会

会長 木下 毅

下関市民の皆様におかれましては、日ごろから下関市医師会の活動へご理解ご協力いただきありがとうございます。

今般の新型コロナウイルス感染症流行について、下関市医師会は対策チームを発足し、市民の皆様の健康を守るため、下関保健所や市内基幹総合病院と協力し、日夜その対策に取り組んでいます。ただ、この感染症を克服するためには、医療従事者や行政の努力だけではなく、市民の皆様お一人お一人のご協力が欠かせません。そこで今回は、今求められている行動自粛の必要性を、3つの「目からウロコ」と題して解説させていただきます。

目からウロコ その① 「もう一つの医療崩壊」

新型コロナウイルスによる医療崩壊が叫ばれています。皆様は「新型コロナウイルスに感染した人が入院する病院のベッドが不足する」ことを想定されると思いますが、一般市民にとって最も怖いのは「ふつうの急病になっても診療してもらえない」ということです。新型コロナウイルス感染症の患者さんで市内基幹救急病院のベッドがいっぱいになると、いやいっぱいにならなくても集中治療室におられるだけで、ふつうの脳卒中や心筋梗塞の患者さんが救急車で運ばれても治療を受けることができなくなります。若い方々も偶然交通事故にあったり大けがをしたときにも救急治療が受けられなくなります。また、癌などの予定手術もできなくなります。

新型コロナウイルスへの感染とは別問題として、「自分もふつうの病気の医療が受けられなくなってしまう」ということをご理解ください。

目からウロコ その② 「次の人に移らなければウイルスは死ぬ」

政府の緊急事態宣言が発出され、国民に行動自粛が求められています。地域経済・産業がまわらなくなってしまうのに、なぜ行動自粛が必要なのでしょう？ ウイルスは細菌とは異なり「自分だけでは生きていけない」のです。今回のウイルスはRNAウイルスと言われています。RNAというのは細胞の設計図である遺伝子です。今回のウイルスはそのRNAとそれを包むエンベロープという袋からできていますが、基本的には設計図だけであり生産能力を持たないので、自分の力で増殖（コピー）したりエンベロープを作ることはできません。必ず人の細胞に入って人の力でコピーしたりエンベロープを作ってもらっているのです。つまり、ウイルス単独で

は生きることも増えることもできないので、「次の人に移さなければウイルスは必ず減っていく」のです。だから、人と人が接触しなければ、いつかは必ず新型コロナウイルスは減るのです。

目からウロコ その③ 「なぜ80%の接触削減か？」

政府の諮問機関である専門家会議から「人との接触を80%削減」するよう提言されています。専門家会議のメンバーである北海道大学の西浦教授によりますと、接触を8割減らすことができれば2週間ほどで1日の感染者数の数が落ち着きはじめ、さらに2週間たった1か月後には目に見える効果が出てくることが期待できるということです。一方で、接触の減りかたが不十分で、7割や6割程度にとどまると効果が出るまでに2か月や3か月とかなり長い期間がかかってしまうということです。8割減らすということは、今まで1日10人の人と会っていたらそのうち2人とだけ会ってよいということです。かなり厳しいですが、地域産業・経済の停滞を少しでも短期間で終わらせるために、ぜひ「80%の接触削減」をお願い致します。

以上3点をご理解の上で、具体的には、正しい手洗いの励行や、密閉・密集・密接のいわゆる「3密」を防止する行動をお願い致します。

また、この情報は2020年4月12日現在のものです。新しいウイルスですから医学研究により日々情報は変わっていく可能性があり、新しい情報があれば、またお知らせします。

下関市の隣の福岡県は緊急事態宣言対象地域であり、少しでも油断すると数日以内に下関でこのウイルスの大流行が起こりえます。

我々下関市医師会は、「下関市民の命を守り、新型コロナウイルスを一日も早く収束に導いて地域経済の疲弊を最小限に食い止める」ため、日夜努力を続けて参ります。市民の皆様お一人お一人が、ご自分と大切な人の命を守るための行動を通じてご協力いただきますよう、心からお願い申し上げます。